

【別紙様式2】

平成27年度 県立水戸南高等学校（定時制・夜間制）自己評価表

No. 1

目指す学校像	校是「風雪に耐えてこそ、巨木の年輪ハ刻まれる。」 常に明るい態度で学校生活を送りながら主体的に学習に取り組み、高い理想を追求する向上意欲に燃え、豊かな心と丈夫な身体とを兼ね備えた、心身ともにたくましい人間を育成する。		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>○基礎学力向上のための実力テストを実施したり、授業展開を工夫するなどして義務教育段階での学習内容の確実な定着・向上に努めた。しかし依然として学習意欲や基礎学力が不足している生徒が見られる。また学習の習慣が身に付いていない生徒も多い。</p> <p>○一人一人の状況に応じてきめ細かな進路指導を行った。しかし、勤労観や職業観が十分身に付いていない生徒がまだまだ多く、不況が続いていて進路希望が実現しにくい状況である。</p> <p>○各担任等が生徒ときめ細かなコミュニケーションをとることにより生徒理解が進んでいるが、依然として、怠学、基本的な生活習慣・規範意識や公共心に欠ける等、様々な問題を抱えている生徒が見られる。</p> <p>○芸術鑑賞会・クラスマッチや文化祭など種々の学校行事を工夫して実施しているが、望ましい人間関係を築く力や社会人として必要とされる態度を育成する特別活動を更に充実させる必要がある。</p>	基礎学力の向上と指導方法の工夫改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の中で課題小テストを実施し、生徒一人一人の学習状況を把握するとともに、学習形態や指導方法を工夫し、きめ細かな学習指導を行う。</li> <li>進路希望実現に向けて年3回の実力テスト【コンテスト形式】を実施し、社会で必要とされる一般常識・基礎学力等の確実な定着を図る。</li> <li>学習意欲を引き出せるよう指導方法や教材・教具を更に工夫する。</li> </ul>	B
	教育活動全体を通じたキャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育活動全体を通じ、組織的・系統的なキャリア教育を更に充実させ、発達段階に合わせて望ましい勤労観・職業観を育成する。</li> <li>進路実現に向けて主体的・積極的に取り組む機運を醸成する。</li> <li>進路面談や個々の生徒へのサポートをより充実させ、きめ細かに一人一人のキャリア発達を支援する。</li> <li>ジョブカフェやハローワーク等の外部機関との連携を一層強化する。</li> </ul>	B
	生徒指導及び道徳教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部機関やスクールカウンセラーとの連携をとりながら、教育相談体制を充実させ、種々の課題を抱えた生徒に対して共感的理解に立って各種支援を行う。</li> <li>外部機関との連携を充実させ、教員集団の共通理解のもと組織的・計画的な生徒指導を行うことで、基本的な生活習慣の確立や、規範意識および公共心・道徳心の育成を図る。</li> <li>「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの防止に努め、実態把握や対応を適切に行う。</li> </ul>	B
	特別活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活体験発表会や南祭に向けホームルーム活動や生徒会活動を活性化させ、望ましい人間関係を形成するとともに、自己肯定感・自己有用感を育む。</li> <li>行事への主体的な取組により、協力して諸問題を解決しようとする実践的な態度を育て、いじめを排除する空気を持った生徒集団を構築する。</li> <li>南高スピリットアッププログラムを効果的に活用するなど学校行事を充実させ、集団への帰属意識や連帯感を深め、公共の精神を養う。</li> <li>定通体育大会や生活体験発表会等への参加を奨励し、活動者数の増加に努める。</li> </ul>	B

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
教科	国語	学習習慣を身に付けさせ、基礎学力の向上を図る。	B	基礎学力定着のためにさらなる工夫を図る。	
		コミュニケーション能力の一つとして言語表現を身に付けさせる。	A		
	地理歴史	我が国及び世界の形成の歴史や生活文化の特色について、基本的な内容を理解する能力を高める。	A		C
		自然環境や生活様式などの地理的事象について、資料などを提示して興味・関心を高めさせる。	B		

教	公民	現代社会の仕組みを理解し、諸課題について主体的に考え、公正に判断する力を養う。	・具体的な事象を取り上げることで興味を喚起し、理解が深まるよう努める。	B	B	18歳から有権者になることを認識させ、自分の考えを持てるように指導法を改善する。
			・現代の経済と国民福祉について、資料の提示を工夫しながら指導する。	B		
			・日本国憲法と民主政治と自らの生活が深く関係していることを理解させる。	C		
			・国際社会と課題について考えさせる。	B		
	数	学習意欲を喚起し、基礎学力の定着と向上を図る。	・学習内容を精選し、わかる授業を心がける。	B	B	指導方法の工夫・改善を図り、学習意欲の向上を推進する。
			・授業の中で基本的な計算の演習を行い、計算力の向上を図る。	B		
			・一人一人の能力、意欲の違いを認め、自発的な態度を積極的に評価する。	C		
	理科	基礎学力の向上を図る。	・中学校での指導内容を確認しながら指導を工夫する。	C	B	引き続き実験や視聴覚機器の活用により興味・関心を喚起する。
			・実験や観察を通して生徒の興味を喚起し、理解を深めるようにつとめる。	B		
			・人間生活に関係する物質や現象等の説明では、実物を用意して紹介する。	B		
保健体育	基礎体力の向上を図る。	・授業の始めと終わりの挨拶、準備運動等を行い、体力や柔軟性を高めるとともに怪我の防止に努める。	B	B	団体行動が速やかにできるように授業の中で取り組んでいく。	
		・生涯を見すえた健康のあり方について早い時期からの生活習慣が大切であることを学ばせる。	C			
芸術	生涯にわたって芸術を愛好する心情を育てる。	・芸術の幅広い活動に取り組みせ、表現する喜びや達成感を味わせるとともに、表現に対する意欲を引き出す。	C	C	重すぎず軽すぎず適切な課題を選択させるに更なる配慮を要する。	
		・様々な優れた芸術作品に触れたり、芸術の諸能力を高めたりすることにより、感性を高め、芸術に対する理解を深める。	C			
外国語	基礎学力の向上を図る。	・必修のコミュニケーション英語Ⅰの授業展開を工夫する。	B	B	グループワークを取り入れて言語活動をもっと行う。	
		・プリント、少テスト等を活用し、英語への理解を深めさせる。	B			
		・音読や聞き取りなど話す英語にふれさせ、個々の生徒に英語への興味関心を持たせるように努める。生徒に対する話し方(話術)を工夫する。	C			
家庭	積極的に授業に参加する態度を育てる。	・授業課題の内容と実生活に生かせる知識と技術に関連させる指導の工夫を行う。	C	C	生徒の実態に即した分かる授業の展開を工夫する。	
		・授業課題を有効に活用し、生活を総合的にマネジメントする能力を高める。	C			
		・レポート作成に対する指導を充実させる。	C			
情報	情報化する社会に積極的に参画できる能力・態度を育む。	・課題レポート解答を自力で作成し、期日を守って提出することを促す。	D	B	日常生活における情報機器の適切な使用方法を習得させる。個人情報適切な取扱いについて理解を深めさせる。	
		・実習を充実させて、情報活用の実践力の確実な定着を図る。	B			
		・情報ネットワーク上のルールやマナー、危険回避、人権侵害、著作権などの知的財産の保護などについての指導を充実させる。	B			
商業	簿記能力を高める。	・個別指導を中心に、演習とプリント学習を取り入れ、自ら考え解決する力を高める。	B	B	家庭学習の習慣を身につけさせるための指導方法を改善する。	
		・簿記の学習を通し、合理的な考え方や整理する能力を養う。	B			
		・私たちの生活が法と関わりが深いことと法が必要なことを理解させる。	B			
経済活動にともなう法規や社会生活に関連の深い法規について学習する。	・基礎的・基本的な事項について具体的な事象を取り上げ、理解を深めさせる。	B	B			
	・様々な事例問題において、自ら考え判断する力を養う。	B				

教 務	開講講座を検討する。	・開講する講座（科目）を再検討し、受講生徒に偏りが出ないように努める。	C	B	生徒が減少している現状を考慮すると、開講する講座の精査・再検討が必要か。
	シラバスを充実させる。	・実用的なシラバスを作成し、履修指導に生かす。	C		
	内規を検討する。	・夜間制の実情に合った内規の検討を進める。	B		
	理想的な時間割を作成す	・引き続き、与えられた条件の中で、バランスのとれた時間割作成を目指す。	B		
学習指導	自ら考え、積極的に学ぼうとする態度を養う。	・授業への参加率の向上を図るため、集会等で授業や学習の重要性を説明する。	B	B	継続的に学習する姿勢を身につけさせる。
	基礎学力の定着とともに、進路実現に向けた学力の向上を図る。	・学習意欲を引き出せるような教材・教具を工夫する。	B		
		・授業の中で小テストを実施し、生徒一人一人の学習状況を把握する。	C		
		・学習形態や指導方法を工夫し、学習指導を充実させる。	B		
		・進路希望実現を目標に年3回実力テストを実施する。また、生徒の取り組みを喚起するための工夫をする。	A		
生徒指導	共感的理解を持って生徒理解を深め、教員と生徒の良い人間関係を築く。	・登下校時や始業前などに生徒へ声をかけるなど、日々の積み重ねを重視する。	B	B	生徒理解に重点を置いた指導を心がけ、生徒の主体的判断や自律的行動の育成を図る。また、特別活動を通じて、社会に通用するマナーを身に付けさせる。
	基本的生活習慣の確立や、規範意識などを育てる。	・「道徳」やLHR等を通して生徒自身が自らを振り返ることの重要性を説明する。	B		
		・生徒の情報や問題を共有し、更に外部機関と連携をとることで、問題の未然防止を心がけ、迅速な対応に努める。	B		
	学校行事を充実させ、集団への帰属意識を高め、公共の精神を養う。	・生徒会活動やHR活動を活発に行い、協力して問題を解決しようとする態度を育てる。	B		
	本校の「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの防止に努め、実態把握およびいじめに対する措置を適切に行う。	・生徒の自己有用感等を高め、生徒から相談しやすい関係を構築し未然防止に努める。 ・保護者から相談しやすい関係を構築するとともに、いじめの早期発見に努める。 ・いじめ発生の際には、被害者の心のケアや加害者への指導を適切に行い早期解消に努める。 ・保護者と密接に連絡を取るとともに、必要に応じて関係機関と連携して対応する。 ・情報モラルやいじめについての事例研究や校内研修などの教職員研修を適切に行う。	C		
保 健	基本的生活習慣を基に健康の保持増進に努める。	・健康診断等の受診率を向上させ、その結果から自己の健康と生活習慣についての関心を高めさせる。	C	B	健康管理の大切さを機会ある毎に説明する。
	学習環境の整備に努める。	・学校薬剤師との連携により環境衛生検査を実施し、学習しやすい環境を整える。	B		
進路指導	進路意識を高め、卒業後の進路を真剣に考えることの大切さに気付かせ、自ら行動できるようにさせる。	・各種進路行事を定期的実施して、進路意識を高める。 ・進路だよりの発行や生徒の実態に合った進路情報の提供により進路学習を充実させる。 ・各教科・学習指導部と連携して一層の基礎学力の養成を図る。 ・ジョブカフェやハローワークとの連携の強化を図る。	B	B	保護者の進路への関心をさらに高め、進路指導への協力を得るために、行事の運営や情報提供のしかたを工夫する。
	一人一人の生徒の状況や進路希望を把握し、個に応じた丁寧な指導に努める。	・進路アンケート・進路適性検査を実施する。 ・面談に活用できる進路資料の作成に努める。 ・個別面談の充実を図る。	B		
	渉外部	家庭との連携を密にし、各種行事への保護者の参加率を高める。	・各種行事への案内方法を工夫し保護者の参加を促して、参加率の向上を図る。		
・会員相互の親睦を図るために、参加しやすい行事や研修旅行等を企画する。			C		

第1年次	生徒各々が自らの意志で学校生活を充実して送れることを目指す。	・自分を律してけじめのある学校生活を送れ、生徒同士がお互いに認めあえるような人間関係が築けるように努める。	C	C	基本的な生活習慣が身につけていない生徒が多く、欠席が目立ったのでなるべく欠席しないように健康管理や生活習慣をもう一度見直し、学校生活で学習に専念できるようにする。
		・生徒との信頼関係を築き、安心して登校できる環境を整える。	B		
		・社会の一員としての自覚を促す。	C		
		・問題のある生徒に対して、全職員で情報を共有し、対処できるようにする。	B		
	・保護者との連絡を密にし、生徒の学校生活への協力を得る。	C			
生徒の主体性を重んじ、自立への模索を援助する。	・清掃や授業の準備、後片付け等を分担させることで、生活協同体としてのまとまりを自覚させる。	C			
	・「道徳」、クラスの係、生徒会活動、学校行事、生活体験発表会、アルバイト等様々な指導の機会をとらえ、人を思いやることと潔い態度をとれるよう導く。	C			
第2年次	自立的・自発的な行動がとれるよう自覚を促す。進路に関する興味・関心を高める。	・社会に出るのに大切な基本的な生活習慣を自覚させ、責任ある行動がとれるように細やかな指導をする。	B	B	家庭との連携をより密にしていく方法を検討する。
		・欠席を減らすとともに、授業へしっかりと取り組む態度が確立できるよう工夫する。	C		
		・進路指導部と連携し、生徒への情報提供を充実させ、進路意識を高める工夫をする。	B		
第3年次	進路希望の実現を図る。	・外部機関との連携を図り、進路ガイダンス、三者面談やLHRを活用して主体的に自己の進路を考えていけるよう支援する。	B	B	なかなか前に進むことをためらう生徒が多いが、あせらず卒業までのスパンでじっくり取り組むことが大切である。
	社会人として生きる自覚を持たせる。	・あらゆる場面を利用してコミュニケーション能力を養い、社会の一員として責任ある行動がとれる人を目指す。	C		

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない